

1、幼稚園の教育目標

緑深い木々と、広い運動場、整った設備の中でいきいきとした心身の健康と体力増進を中心とし、ひとりひとりの個性を大切に、諸能力を十分に発達させ、情操を豊かにし、人間形成の基礎を確立することを目標とする。

2、本年度、重点的に取り組む目標・計画

幼児教育要領について理解を深め、職員一人ひとりが丁寧に子どもと向きあう。主体的・対話的な深い学びを充足すると共に子どもが自ら感じ行動することができる保育内容のカリキュラムを作成し実践する。また、感染症対策に取り組みながら様々な活動を行う。運動カリキュラムによる活動や集団での運動遊びを通してそれぞれの課題や特性に応じた配慮や環境構成などの支援体制を充実させる。

3、評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	結果	理 由
幼稚園の教育課程の編成・実施や目標に基づいての計画性や保育教育のあり方	B	保育の計画性については清潔、安全な環境構成をもとに子ども達が主体的に活動できる環境を設定し、意欲的に取り組み新しい事にも挑戦することができた。各学年においては年間指導計画を立て学年で話し合い、子どもの様子に合わせて週案を立て計画的に保育を進められるように行った。また、学年の違う異年齢との関わりを深めようと職員間で話し合い、遊びを通して子ども達自身が「声のかけ方、共感する気持ち」など知り得るよう幅広い遊びの活動に取り組んだ。
具体的な保育の在り方、幼児への対応や保育内容の教職員の共通理解	A	子ども達とのコミュニケーションを大切にし、子どもの意見を取り入れた保育が出来た。また、子どもに前向きな声掛けをすることで自信を持って活動できるように関わりを持つことができた。朝の自由遊びの時間では絵本や玩具などで遊ぶ以外に廃材や教材を自由に使えるようにし、遊び方なども子ども達自身で工夫し考えることができた。それらの活動を通して子ども達の興味ある活動に気づくことができた。行事ごとに会議、振り返りを行うことで職員間の共通理解を深めることができたので、気づいたことを次年度にむけて繋げていきたいと思う。
教師としての資質や能力 教職員間の相互理解	A	個人情報管理、取り扱いなど園の決まりを守って行うことができた。クラスの子どもの様子など日々の活動の中で気づいたことがあれば職員間で報告し情報を共有し合うことができた。会議では、一人ひとりの意見を聞き問題に対して改善できるように努めた。
保護者への対応	A	れんらくアプリを活用し保護者の方への連絡や園の様子など随時配信し伝えることができた。また、保護者の方からの連絡メールで子ども達の家庭での様子を把握し園においてすぐに対応することができ、担任と保護者間において共有し問題解決へと繋げることができた。また、担任は各クラスでの子ども達の様子など丁寧に保護者に伝え、対応することを心掛けた。

地域とのかかわり	C	コロナ禍ではあったが、感染症対策に気をつけながら地域の方も参加できるバザーの開催を行うことができた。小学校との交流が今年度も難しく関わりを持つことができなかった。また、地域の様子を知ることなどの課題に対し、今年度もコロナ禍ということで積極的な活動が出来なかった。
研修の取り組みについて	B	新任研修を始め、職員間で時間を調節し園外の研修に意欲的に参加することができた。また、オンライン研修においても様々な研修に参加し、学んだことを職員間で話し合い、取り組めることがあれば実際に行うなど日々の保育を向上させることができた。それらを踏まえ、新しい活動へと繋げる事が出来た。
安全面に配慮した環境づくりと地域の自然や社会との関わりや取り組み	A	運動場や、保育室の清掃・整理をしながら危険な場所や、遊具の状態を確認し子ども達が日々安全に活動できるように留意した。また、防犯、防災、防火訓練においては想定外のことが起こった時の対応が出来るよう職員間で話し合いイメージを膨らませ、危機管理意識を高めることができた。

◎評価結果の表示方法

- A 十分達成されている B 達成されている C 取り組まれているが、成果が十分でない
D 取り組みが不十分である

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理 由
B	昨年に引き続きコロナ禍であったが、日々感染症対策をしながら、子ども達の保育活動を十分行えるよう職員間で話し合い、計画を立てて行うことができた。また子ども達が主体的に活動できるよう内容の見直しを図り、保育の内容を工夫することで、子ども達の意欲や取り組み方に変化がみられた。

5、今後取り組むべき課題

課 題	具 体 的 な 取 組 方 法
子どもとのかかわり。環境構成について	子どもとのコミュニケーションを大切に子ども達の意見を取り入れた保育、前向きな声掛けをすることで自己肯定感が高められ、子ども達自ら考える力、友達と協力する姿が見られたので次年度も引き続き子ども一人ひとりを理解し、子ども達の遊びのイメージが膨らむように環境構成を整え保育活動を行いたい。
運動遊びの取り組みについて	年間を通したカリキュラムを作成し、子ども達がより楽しく目標をもって運動遊びに取り組むことが出来るように考える。また集団遊びの工夫や異年齢との関わりをもった運動遊びへと展開できるように取り組む。
環境構成の取り組み	子ども達自身が主体的な活動ができるように取り組む。朝の自由遊びの時間に廃材などを自由に使えるようにし、ブロックやおままごと以外にも、子ども達自ら遊びを展開し遊びの選択肢が増えるような環境を作る。
地域社会・研修について	地域への興味関心を子ども達に知らせる為に職員間でも知り得た情報を伝達し共通理解が出来るようにする。また、研修においては積極的に参加し学んだことを職員間で話し合い相互に向上できるようにする。

6、学校関係者の評価

特に指摘すべき事項はなく、妥当であると認められている。

7、財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。